



## 第16回レーザーレーダー国際会議 (16ILRC) のお知らせ

主 催：国際放射会議 (IRC) ICLAS  
 共 催：フィリップス研究所, NASA, 米国気象学会 (AMS), 米国光学会 (OSA)  
 日 時：1992年7月20日(月)～24日(金)  
 場 所：ボストンマサチューセッツ工科大学 (MIT)  
 分 野：応用(大気, 陸域, 海洋, 汚染, 宇宙からの計測, 地球規模の変化) ライダーシステムと技術, 手法, 要素技術, 等.  
 発表形態：講演とポスターセッション(講演は第1著者に限る)  
 発表申込：アブストラクト(2または4ページ, 図表を含む)  
 申込締切：1992年3月31日

送 り 先：ILRC16

c/o Dr. Gilbert Davidson, Photo Metrics,  
 Inc. 4 Arrow Drive, Woburn MA 01801-  
 2067 USA.

Tel. 1-617-935-6500

Fax. 1-617-935-0747

国内問い合わせ先：

〒260 千葉県弥生町 1-33

千葉大学映像隔測研究センター

竹内 延夫

Tel. 0472-51-1111 (内2987)

Fax. 0472-53-0272

編集後記：現在、私の所属している東京管区気象台調査課では、メソ $\alpha$ スケールの現象の調査を盛んに行っています。具体的には、関東地方特有の北東気流による悪天や、日本海低気圧から伸びる寒冷前線が通過する際の気象変化の特徴などの調査・研究です。折しも、気象庁予報課においても、昨年度から「メソ量的予報技術の確立について」と題して、5年計画でメソ気象現象のモデル化(メソ天気系モデルの作成)を鋭意行っているところ です。

このようにメソスケール現象の調査・研究に重点を置く背景には、よりきめ細かな予報に対する社会的なニーズが高まってきていること、技術的には、数値予報の精度・分解能の向上(水平分解能に関しては、現在 40 km,

今年から 30 km を予定し、将来的には 10 km を計画している)、気象衛星、気象レーダー、そして世界一の密度を誇るアメダスの観測データなどが磁気媒体で提供され、解析が稠密にしかも容易に行えるようになったことがあげられます。

昨年一年間の「天気」の目次を眺めてみるとやはり、メソ気象に関する論文、シンポジウム、行事等が毎月のように誌面を賑わせており、この傾向は今後ますます強まるのではないかと考えられます。皆さんもぜひともメソ気象に興味を持っていただき、できれば調査・研究され、積極的に投稿していただければと思います。

(中三川 浩)